

ご挨拶：研究会 300 回開催記念特別講演会とその後にむけて

ガスクロマトグラフィー研究懇談会委員長
前田 恒昭 ((独)産業技術総合研究所)

ガスクロマトグラフィー研究懇談会の設立 50 周年記念特別講演会を 2008 年 12 月に開催しました。2009 年中に研究会開催 300 回を越えます。ここまで研究会が続いてきたことは歴代の運営委員の努力、関連企業の協力、多くの会員の支援の賜物と深謝いたします。1995 年の 200 回記念から 300 回にいたるまでは GC 懇のホームページに掲載されている要旨集の目次や研究会開催案内などから活発な活動が読み取れます。特別講演ではその時々々の社会情勢やガスクロの分野で話題になったテーマなど非常に興味深いものが取り上げられてきました。この時期は海外との交流や発表が増加し、日本の研究が応用面も含めて世界的水準に達してきた時代を反映しています。近年益々重要性を増すガスクロマトグラフィーが活躍する分野の幅広さや、様々な形で関係する研究者、ユーザー、機器メーカー等の活動の基礎となる部分が形成されてきた時期でもあります。ガスクロマトグラフィーが利用される分野、機器の発展は原理の理解とそこから生まれる新たな展開、研究者の夢の実現、ユーザーの無謀とも思える要求とそれに答えるメーカーの工夫、使い易さを追求する絶え間ない改良などが具体的な形となってきたものといえます。分析化学の分野でもキャピラリーカラムはいち早くマイクロ技術を実現し実用化した画期的なものでした。しかし、それに続く検出器のマイクロ化、試料導入系の改革、ガスクロ本体の新しい変化など、まだまだ残された課題はたくさんあります。ガスクロの多様性と可能性もまだ限界には至っておりません。研究者、ユーザー、メーカーがそれぞれの面から協力し、可能性を追求する余地もまだまだたくさん残されています。一方で原理を知らなくてもある程度の結果が得られるよう装置の完成度も向上してきました。しかし、原理を理解した上で結果を眺めることは、データの質を維持する上でも、新たな手法開発を行なう上でも非常に役に立ちます。研究懇談会は 200 回開催を契機に実習を開始し、出版も含めて学会として教育的な面についても積極的な活動を続けております。また、40 周年を記念した国際交流の活動は日中韓分析研究交流会を形成し定常的な活動となりました。

今回の主題は「安心・安全と快適な生活を支える分析化学」とし、不況とはいえ豊かになった時代を反映したものとしました。クロマトグラフィーに限らず、現代の文化的生活を支える分析化学という視点から企画しました。分析化学が貢献する分野を理解し、これ等の分野の要求に答えることでより良い生活環境が得られる事と確信しております。300 回を越えて更なる展開を続けるガスクロマトグラフィーの分野で、研究懇談会がどのような形で活動を続けていくかは、ひとえにこの分野に関心がある会員の活発な活動に依存します。研究懇談会の活動は会員の方々の参加と要請に基づくものに他なりません。会員の方々、今後会員になる事を考えている方々が、ガスクロの面白さ、可能性の追求に関心を寄せ、研究発表や意見交換を通じて会の利用価値を最大限に活かせるよう活動していく所存です。今後ともご支援・ご協力よろしくお願いいたします。